

# ビハーラ山陰

創刊号【平成26年4月1日】



浄土真宗本願寺派 山陰教区教務所

〒690-0002 島根県松江市大正町443-1 本願寺山陰教堂内  
TEL 0852-21-4747 / FAX 0852-27-8351

## 「創刊にあたり」～「願作仏心 度衆生心」

この度、念願の機関誌の創刊の運びとなりました。教区内の情報交換や啓蒙活動のお役に立つことを願っています。



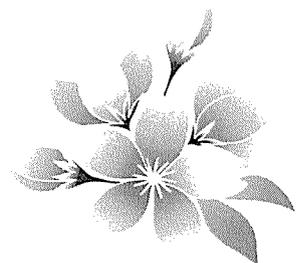
ビハーラ山陰  
会長 渡辺 哲彦

私は「ビハーラってなんですか」聞かれたときに、「願作仏心 度衆生心」の心です。とお答えしています。信楽峻麿先生は真宗学概論で【親鸞聖人は、『願作仏心』については「弥陀の悲願を深く信じて、仏にならんと願う心を菩提心とまうすなり」(『正像末和讃』左訓)、自身の成仏とともに、他者の成仏を願って生きるということです。】と示してくださっています。

念仏者は、念仏を申して必ず仏になりたいと願う心をもつ。と同時に、その念仏のみ教えを多くの他者に伝えて、御同行・御同朋の連帯の和を広げていくことが大切であると、教えてくださっています。

「ビハーラ」とは、念仏者の社会活動、社会実践です。それは、お念

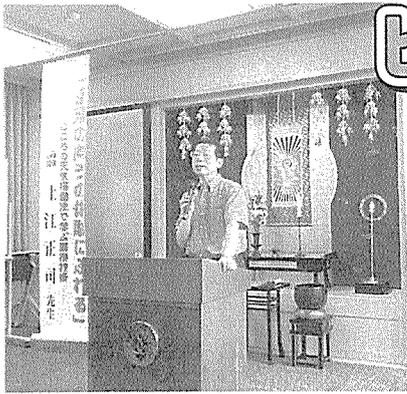
仏によって育てられた私の体と心を、悩み苦しむ人々の元へお届けして、少しでも他者の立場にたってお役に立ちたい『度衆生心』なのです。皆様のご参加をお待ちしています。



平成25年度  
ビハーラ山陰公開講座の様子



# ビハーラ山陰総会・研修会報告



**とき** 平成25年6月6日 **ところ** 本願寺山陰教堂 教化センター

午前に総会開催。前年度事業並びに監査報告。新年度の事業計画・予算案審議。昨年度の設立から1年経過し、若干の規約改正と新事業として機関誌を発刊することが決定。

引き続き午後より研修会。心身教育研究所の土江正司氏より「言葉の向こうの体験に触れるーこころの天気描画法で学ぶ面接技術」と題しての講義。その後3~4人のグループでこころの天気描画法ワークショップ。

(自分の今現在の心を天気に例え、カラーマジックや色鉛筆を使って絵を描き、描いた作品について、その理由や心に思った事を「つぶやき」として記入。最後に絵に対する自分の思いを俳句でまとめ発表する)

31名の参加者それぞれに多くの「気付き」と「学び」があり、有意義なひとときが過ごせたと思う。

## 2013年度ビハーラ山陰公開講座に参加して～受講者感想～

**とき** 平成26年3月10日 **ところ** 大田市民会館 中ホール

大田中組 安養寺 寺本 尔 芳

2013(平成25)年度のビハーラ山陰公開講座は参加者110有余名が集い、わけでも僧侶・寺族の方が多数であった。この活動の深まりを強く覚えたことである。寺院、ことに僧侶使命である実践の文字がややもすれば希薄になりがちである。一自らの反省の発露一

さて、先生の講演を聴講して、ふっと2004年5月と9月、NHKラジオ深夜便で二人の医師のお話を思い浮かべた。一人は早川一光先生(戦後間もない1950年、京都西陣に診療所を開設=地元の要望にこたえて)放送の一コマに同先生が「80才に至って医師は患者に寄り添うだけの大切さに気づいた」と語られ、今もその語り口が私の脳裏から離れない。今一人は(大分県宇佐市の病院の医院長、地域のビハーラの会会長等、現在は龍大の客員教授でもある)田畑正之先生。2011年度ビハーラ山陰の研修会講師にも招致。この二人の先生は多くの方が御存知と思う。田畑先生の持論の一つは「仏法の元に医学が存在すべきである。従って医者と僧侶は共に繋りを持つべきだ」という趣旨が強調されていて深い感銘を受けている。

そしてこの度の鍋島先生の語りかけは、真摯にして心の温もりを味わうとともに、ビハーラ活動の原点を指摘された講演に感動したことである。

親鸞聖人のみ教えに学び、その学びをデスクワークに留めず、実践に勤めていく重要性を心新たにしたことである。

中村久子女史の障害に触れられて、親鸞聖人のお心を拝して他力に出会う念仏は、一人間の努力を支えてくださっている阿弥陀如来のお呼び声である。人生に絶望はなく、いかなる時も生かされていることに気づかせて頂く。鍋島先生のお話を伺い私として受け取らせて頂いた一端である。

思うに、鍋島・田畑・早川先生の立脚点は共通した人と人との繋がりを説かれていくことに気づかせて頂いたことを付言して鍋島先生の講演の思いを感動の内に述べさせて頂いた。

称名

大田中組 浄円寺 柿田 輝 美

私がビハーラについて知ったのは5年前です。このビハーラ活動が「大人との交流」プラス「子ども達との交流も有り」と知り、現在週1回市内の保育所に行き、素話や絵本の読み聞かせ、時には童心に返り折り紙や園庭で追っかけっこなどをしています。

私が大田の中日つつあん(大田市のお彼岸のお祭り)へ行った時のことです。芝居小屋で口で裁縫をし、口で文字を書くという芸人さんを見ました。彼女が中村久子女史だったことを知ったのは、それからずっと後のことでした。

彼女が自立出来る様にと、幼い時から厳しく躾けられたといいます。ハンディを持つ子の親として、少しでも自立して欲しいと願う気持ちはとってもよくわかります。自分の子育てと重なり、胸が熱くなりました。

女史が生き抜かれたころは、強い偏見や差別があったと思います。そんな時もお念仏を心の支えにされていたとのこと。その姿には敬服します。なんと云っても家族との絆の強さには感動させられました。

自死はマスコミなどで見聞しますが、ひとごとの様に思っていました。しかし友人が自死遺族になろうとは…。生前の彼はとても真面目な方でした。

徐々に会った彼女の心境を察することは出来ず、なんと声を掛けたいのかわかりませんでした。自分の中で自死の話題を避けており、これでいいのかな?と自問自答しているこのごろです。



活動紹介  
鳥取  
ブロック

## ～宿坊で語るガン患者の集い in 光澤寺～

鳥取因幡組 養源寺 宮本直治

ガン患者会《ゆずりは(神戸市)》の代表である私が企画した集い(平成25年10月13日～14日)です。住職さん・坊守さんの細かい気遣いが沢山つまった《がん患者だけの空間》のが光澤寺の本堂に用意され、名古屋・明石などから7名が集まりました。

第一部《心の声を聞く》は告知が最初のテーマ。診察を受けに行き、思いもよらずガン告知された日…「その瞬間までは、皆と同じように死を意識することなく暮らしていた。だけどガンだといわれた途端、社会でキラキラした目をしながら明日に向かって生きている人たちとは違う所…そういうカラー世界とは違う白黒の世界にスポンと落とされてしまった。」と語る50代女性。「この先どうなるのかという不安だけでした」、「私も見なれた街の景色が違って見えた」など、各自がその日の様子を自分の言葉で語ります。

皆が共に唇を噛みしめる場面や、涙を流す人、人の言葉に(そうなのよね)と大きくなすく人、皆それぞれの哀しみを抱えながら生きてこられたことが伝わってきます。

第二部《魂の声を聞く》が終了したのは21時。初めて出逢った人と午前1時まで話しこんだ方も…。翌朝は全員が参加して正信偈のお勤め。初めてのお寺体験と住職さんの法話に心をぐっと掴まれたという方もい

らっしゃいました。でも時の経つのは早いもの、屋には第三部《生き方を考える》も終え、閉会しました。

人が歩いた道・過ぎ去った〈時〉の意味を問い直す際には、《その場の空気》が大きな影響を与えます。本堂を包む「見えない力」。参加された方の感想文を拝見しますと、大ホールでの講演会や病院・市民会館で行われる患者会に参加した時とは異なった〈お土産〉を、ここに納めてお持ち帰り頂けたようです。この集いは胃ガンを頂戴した私の命が続く間、無理せず淡々と続けて行こうと思っております。

## 第2回

宿坊で語り合うガン患者の集い  
in 光澤寺 ～病を御縁に～

日 時：平成26年5月17日(土)～18日(日)  
会 場：浄土真宗本願寺派 光澤寺  
お問合せ：光澤寺 (TEL 0858-84-1650)

活動紹介  
石西  
ブロック

## ビハーラ浜田の活動紹介

ビハーラ浜田 会長 岩本記明

ビハーラ浜田が発足して今年で14年目を迎えます。

会員89名、訪問施設1ヶ所で始まり、会員数114名、訪問施設6ヶ所となり、会員の3分の1が施設訪問をしています。

## 【会員の活動状況】

会費納入で会の活動を応援していただくのはありがたいことと思っています。会報の発行で活動状況をお知らせしています。

## 【施設訪問】

施設との連絡調整は施設の地元の仏教婦人会や会の役員が行っています。訪問は毎月1回、法話会を中心に1時間。地域の老人会やボランティア団体、日本舞踊の社中等の会員以外のご協力をいただいています。

## 【感想】

最近、施設の若い職員が法話を熱心に聞いています。面会の家族や前述の会員以外の参加者も聴聞してくださり、確実にお念仏の輪の広がりを感じています。





# ビハーラ山陰 「2014(平成26)年度 総会・研修会」のご案内

**期日** 2014(平成26)年5月23日(金)

**日程** 午前：総会 午後：研修会

**会場** 本願寺山陰教堂 教化センター

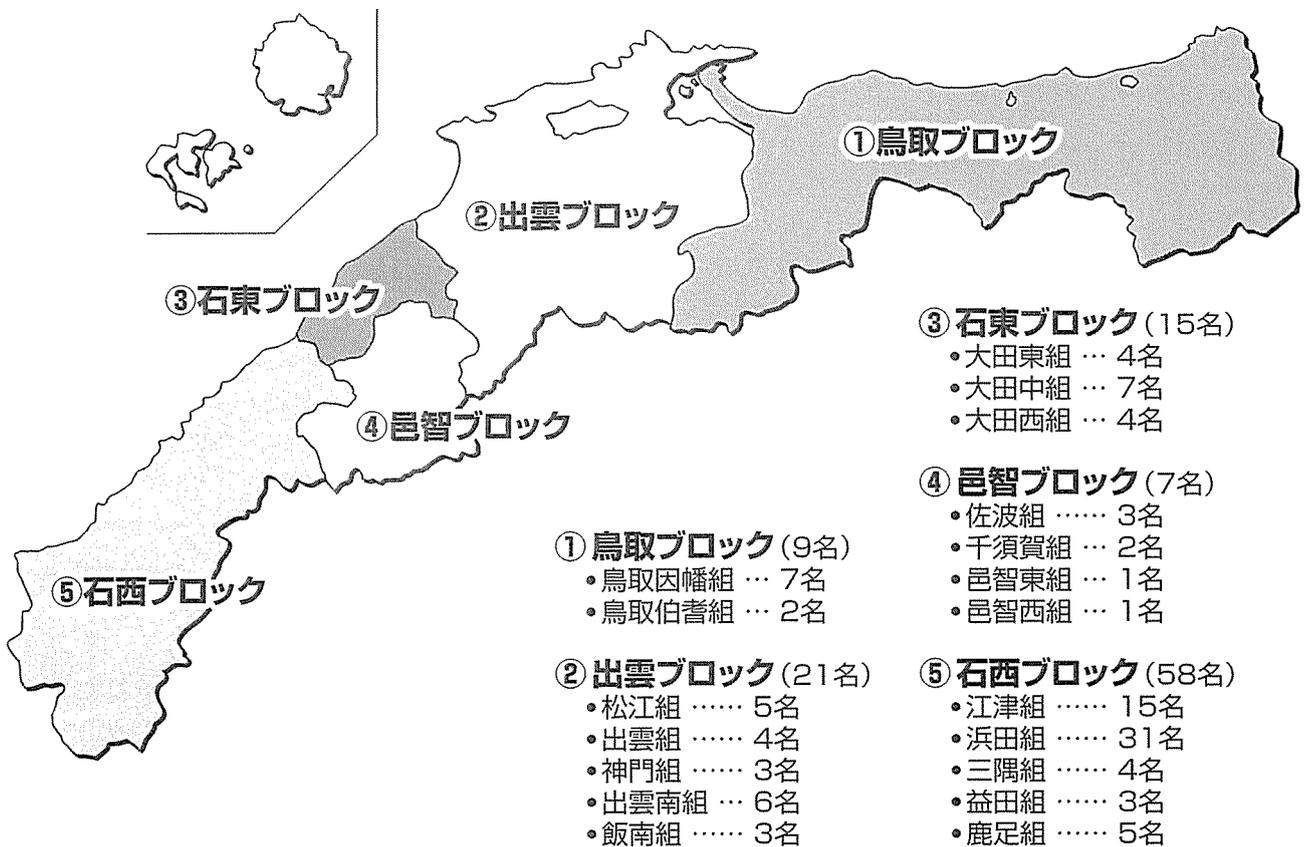
研修会講師は **山本成樹師**  
(あそかビハーラクリニック職員 ビハーラ僧侶)  
にご出講いただく予定です。

## ■ビハーラ山陰役員会名簿

任期：2011(平成23)年10月5日～2014(平成26)年3月31日

役職	組名	寺院名	氏名
会長	浜田	真行寺	渡邊 哲彦
副会長	出雲	宗玄寺	藤森 観海
//	大田中	大雄寺	毛利 壽恵子
理事	出雲南	萬行寺	巖 紀恵子
//	佐波	浄土寺	西原 真公
//	江津	長玄寺	岡本 一代
//	浜田	光西寺	引地 良一
//	鳥取因幡	願正寺	衣笠 千秋
監事	松江	明宗寺	楠 榮美子
//	飯南	明覚寺	玉野 覚明
顧問	教務所	所長	野川 大卓
事務局	教務所		中村 英晴

## ■ビハーラ山陰 ブロック別会員分布表



### 編集後記

「ビハーラ山陰」の再出発から3年、おかげさまでこの度機関誌を発行する運びとなりました。親鸞聖人のみ教えに学びながら展開していく「ビハーラ活動」は、み仏に願われ護られたいのちの尊さに気づき、人々の苦しみに共感し、お互いが御同朋として思いやりあう活動であると受けとめています。

平成24年度からスタートした「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)の具体的活動として、会員が中心となって一人でも多くの人を巻き込んで活動の輪を広げていきましょう。

創刊号の発刊にご協力頂いた皆様、ありがとうございました。

合 掌